

TIC NEWS

vol. **137**
2020.10

(公財) とやま国際センター

〒930-0856 富山市牛島新町5-5
インテックビル4F (タワー111)

TEL (076) 444-2500

FAX (076) 444-2600

E-mail : tic@tic-toyama.or.jp

URL : <http://www.tic-toyama.or.jp>



セー教会。別名「カテドラル・メトロポリターナ」(サンパウロ市)

富山県・ブラジル サンパウロ州友好提携35周年記念

今年で友好提携35周年を迎える富山県とブラジル サンパウロ州。ブラジル富山県人会創立60周年、ブラジルへの富山県人移住110周年にもあたる記念すべき年です。

ナマステ インディア

— Introduction of India in English —

- 10月12日(月)、26日(月)
「家庭でしか食べられないインド料理」
- 11月9日(月)、16日(月)
「インド人の憧れの職業」
- 12月14日(月)、21日(月)
「インドの教祖たち」



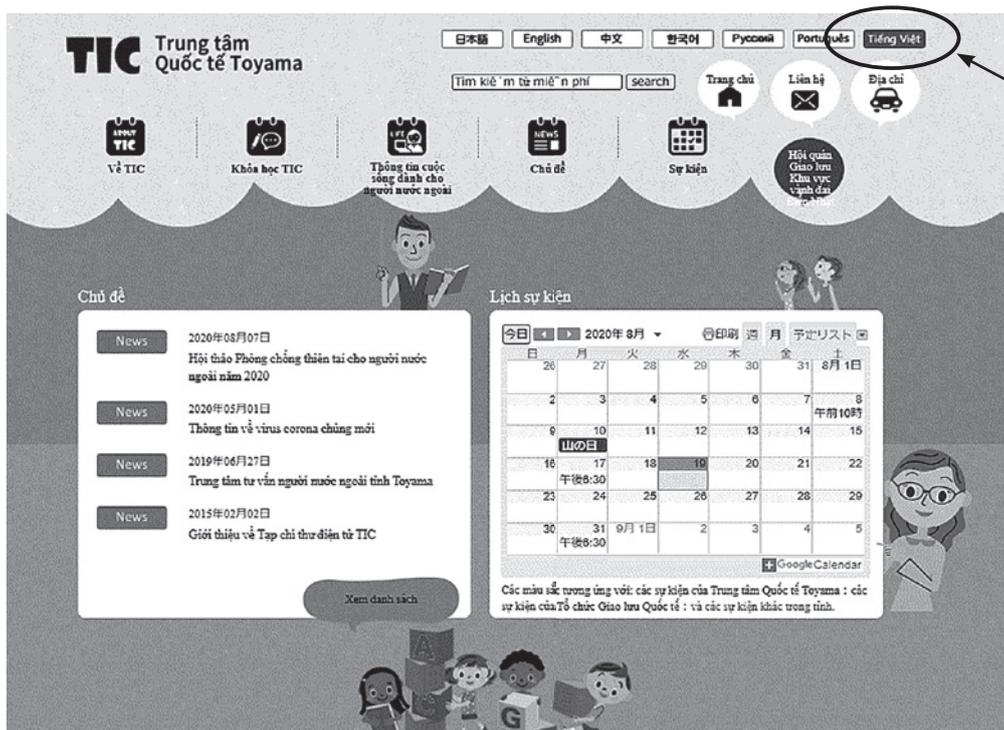
※昨年度の様子

日時：18:30~20:00

場所：(公財)とやま国際センター ラウンジ

インド出身の国際交流員ダーサリ・ラメーシュさんが毎回様々なテーマでインド文化を英語で皆さんにご紹介するとともに、そのテーマについて参加者みんなで英語でおしゃべりしています。インド文化に理解を深めて、さらに英語力も鍛えようというこの企画。毎回和気あいあいとした雰囲気でも盛り上がっています。

ホームページにベトナム語が追加されました！



ここをクリック

とやま国際センターのホームページの多言語機能に、従来の英語、中国語、韓国語、ロシア語、ポルトガル語に加え、新たにベトナム語が追加されました。日本語ページとあわせて、これからは計7か国語でイベント情報や外国人生活情報、災害情報等を発信します。是非チェックしてみてください！



日本語



英語



中国語



韓国語



ロシア語



ポルトガル語



ベトナム語

令和2年度 第1回 日本語ボランティア養成講座

日時：令和2年8月30日(日) 13:30～16:00

場所：環日本海交流会館

テーマ：「Withコロナ時代に対応するスキル

“日本語支援におけるZoom活用講座”」

講師：高島 智美氏（日本語教育機関トヤマ・ヤポニカ）



Withコロナ社会でZoom（web会議ツール）を活用した日本語支援活動を行うために、Zoomの基本的な知識や使う際の留意点を学ぶスキルアップ研修会を行いました。

県内では3月頃から新型コロナの影響で日本語支援活動の中断を余儀なくされる日本語教室が相次ぎました。今回の研修会では、Zoomを使うのは初めてという人も含めて4つのグループに分かれ、参加者側として、またホスト側としてのZoomの使い方を実践的に学びました。

音声が入り切れたり、会話がオーバーラップするなど、ビデオ会議にありがちなトラブルを体験しながらも、参加者の皆さんは今後Zoomを日本語支援活動に活用することに前向きな様子でした。「Zoom利用はコロナ禍にあるときだけでなく、今後の日本語支援活動の幅を広げるツールだと感じた。多少、準備に時間がかかったり、活動の効率が悪くても、継続して使い続けていきたい。」「現在日本語教室に参加していない人もZoomであれば参加してくれるという人がいるかもしれない」などの感想が聞かれました。

語学講座が開講しました！

日時：各曜日18:30～20:00（全15回）

場所：（公財）とやま国際センター 研修室

講座名	開催期間	曜日	定員
中国語(入門)	10/2～3/5	金	20名
韓国語(入門)	10/1～3/4	木	20名
英語(初級)	10/7～3/3	水	20名
新 ベトナム語(入門)	10/5～3/1	月	20名

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、開講を延期していた語学講座が10月からスタートしました。例年実施していた中国語（初級、中級）、韓国語（初級）、ポルトガル語（初級）、ロシア語（入門）については、やむなく中止としましたが、今年度は新たにベトナム語（入門）を追加し、全4クラスが開催されています。

ネイティブの講師による丁寧な授業が魅力の語学講座。これからでもお申し込みが可能な講座もありますので、お問い合わせください。皆様の参加をお待ちしています。

〈語学講座における感染症対策〉

- ・講師の体調管理や、受講生のマスク着用を徹底します
- ・座席の間隔を広くとるため、定員を例年の半分である20名に設定しています
- ・入口に消毒液と非接触型検温計を設置しています
- ・講師と受講生の間に飛沫防止パネルを設置しています
- ・講座開始前後、受講中に換気を行います



今年度新たにベトナム語講座を担当する

ホアン・ティ・チャムさん（県国際交流員）からひと言！

簡単なベトナム語の日常会話だけではなく、ベトナム文化の紹介もします。是非異文化を体験してみましょ。現在、富山県内にはベトナム人居住者がどんどん増えています。勉強後、きっと実践できる日が来ますよ。皆様の受講をお待ちしています。

大いなる大地を求め - 富山県人のブラジル移住の軌跡 -



第3アリアンサ富山村(中央の帽子の男性が松沢謙二氏) ●写真提供:富山県南米協会

富山県・サンパウロ州友好提携35周年

今年、富山県がブラジル・サンパウロ州と友好提携を結んで35周年、さらにブラジル富山県人会創立60周年という富山県とブラジルの交流の歴史において記念すべき年になります。富山県人は何を求めてブラジルに渡り、どのような思いを胸に異国の土地で過ごしてきたのか、その軌跡をたどります。

南米移住の歴史

1492年、コロンブスによる新大陸到達後、スペインとポルトガルは大陸を植民地化し、鉱山資源や農産物の採取等の領土開発をするための労働力としてたくさんの黒人奴隷が西アフリカから連れてこられました。その後、南米の国々は独立を果たしましたが、19世紀後半に奴隷制度が廃止されると各国の労働力不足は深刻なものになり、それを海外からの移民に求めるようになりました。

ブラジル・サンパウロ州でも、従来コーヒー農園にイタリアなど欧州からの移民を労働者として受け入れていましたが、労働の過酷さ、賃金の低さなどのため、欧州各国の移民制度が制限・中止されることとなりました。そこで、サンパウロ州政府はこの代替として日本からの移民受入れに補助金を支給し、農園の契約労働移民（コロノ）として受入れを始めたのです。

その頃日本では、1866年に明治政府が海外渡航を許可する布告を発し、以来、ハワイを皮切りに、北米、オセアニア、アジア等に新しい活路を求め多くの日本人が出国していました。

1908年4月28日、神戸港から781名の日本人が第1回集団移民として「笠戸丸」に乗り出発しました。

- 1908 ○ 明治41年 — 日本初のブラジル移民781名が「笠戸丸」で神戸港を出港
- 1909 ○ 明治42年 — 富山県人初の南米移民としてペルーへ向けて16名が横浜港を出港、翌年3月まで5回、県人計79名が渡航
- 1910 ○ 明治43年 — 富山県人初のブラジル移民3家族10名が「旅順丸」で神戸港を出港、サンパウロ州ガビロバのコーヒー農園に入植
- 1924 ○ 大正13年 — 信濃海外協会設立、第1アリアンサ開設
- 1926 ○ 大正15年 — 信濃海外協会と鳥取海外協会との共同で第2アリアンサが開設
- 1927 ○ 昭和2年 — 第3アリアンサ富山村建設、松沢謙二（福野農業高校教諭）をリーダーとする4家族11名が「さんとす丸」で神戸港を出港し入植、以降10年間で141家族531名が入植
- 1929 ○ 昭和4年 — 世界恐慌によりコーヒーの価格が暴落
- 1931 ○ 昭和6年 — 第3アリアンサ富山村小学校開校並びに図書館、医局開設同年と翌年の2年に渡る霜害によりアリアンサ地区でコーヒーの苗126万本が被害を受ける
- 1941 ○ 昭和16年 — 真珠湾攻撃、太平洋戦争開戦
- 1942 ○ 昭和17年 — アリアンサ4移住地がサンパウロ州政府の管理下に入る
- 1952 ○ 昭和27年 — 戦後移民の再開（戦前移民による近親者の呼び寄せが主流）
- 1960 ○ 昭和35年 — ブラジル富山県人会発足
- 1961 ○ 昭和36年 — 富山県海外移住留守家族連絡協議会設立（現富山県海外移住家族会）
- 1964 ○ 昭和39年 — 県費留学生受入始まる
- 1974 ○ 昭和49年 — 富山県海外技術研修員受入始まる高岡市とサンパウロ州ミランドポリス市が姉妹提携
- 1979 ○ 昭和54年 — 富山県南米協会設立富山市とサンパウロ州モジダスクルーゼス市が姉妹提携
- 1985 ○ 昭和60年 — 富山県とサンパウロ州との友好提携協定締結

富山県人のブラジル移住の歩み

日本人の集団移住が始まった1908年以降、最初にブラジルに移住した富山県人は、第2回移民船旅順丸（909名）の内山仁之助、青木吉太郎、扇浦祐蔵の3家族10名でした。3家族は、他県からの移住者と共に1910年（明治43年）5月4日、神戸港を出発。西回りにシンガポール、ケープタウンを経て6月28日にサントスに到着しました。

当時の航海日誌には、船上では県対抗の綱引き大会が行われていたことや、普段の船内食は麦飯でも、赤道を通過する際は赤飯で祝ったことなどが記されています。



(左) 海外興業株式会社 移民募集ポスター(1925年頃)

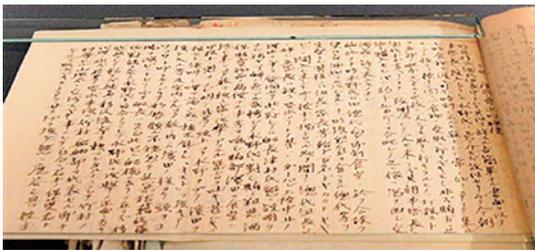
●出典: 外務省

(右) 南米拓殖株式会社 移民募集ポスター(1928年頃)

●出典: 国立国会図書館



富山県移民第1号の3家族を乗せてブラジルに向かった旅順丸(1910年)
●写真提供: 富山県南米協会



2017年に見つかった旅順丸の航海日誌
●出典: 高知県立歴史民俗資料館

ブラジルへ到着後、彼らはガビロバ耕地に入植し、コーヒー等の栽培に従事しました。しかし、宿舎の不備や奴隷的処遇等、当時の移民に対する扱いはひどく、脱耕者も相次いだそうです。

1927年、県海外移民協会がサンパウロ州の奥地に第3アリアンサ*（富山村）建設のため、3250町歩を130戸の自営農民に分譲する開拓移住が始まりました。県幹事の松沢謙二ら先発隊11名に続き、翌年、入植者10家族65名が神戸港を出発しましたが、船内にコレラが蔓延し、45名が被病、14名が死亡しました。当時の船中心得をみると、「ブラジルの悲観説を聞いても迷はされぬこと」、「死亡者が出て悲観せぬこと」という一節もあり、3ヶ月に及ぶ船旅がいかに困難に満ちたものであったかを物語っています。実際入植した人達が見て驚いたのは、富山県で聞かされていた説明との大きな違いでした。既に山焼きが終わり、すっかり整備されていると聞かされていた土地は、着いてみると前人未踏の原生林で、どこから手をつけていいか途方に暮れたそうです。

*アリアンサ…ポルトガル語で「親和」や「協調」の意味

戦後「出稼ぎから永住」へ

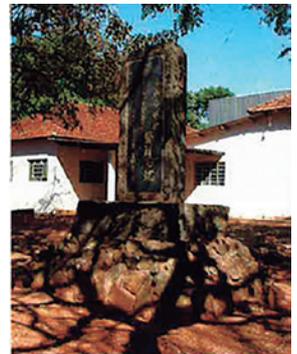
もともとアリアンサは、教養を備えた中産階級・インテリ層の移民を移住地に導入しようとした点で他の日本人移住地とは大きく異なっており、当時の在ブラジル邦人社会の人々の間では「農業経験のない“銀ブラ植民地”」と揶揄されていたほどだったそうです。中でも、第3アリアンサは特に文化事業に熱心で、県幹事の松沢謙二の呼びかけで設置された第3アリアンサ図書館には、日本から新刊図書が寄贈されており、夏目漱石全集の初版本が並んでいたといえます。

太平洋戦争中は移住も途絶えましたが、敗戦後、移民者の中には次第に永住の覚悟が強まり、子弟のポルトガル語教育も盛んになりました。

奥地では教育施設が十分に整っていないため、サンパウロ市郊外への移動が急速に進み、それに伴い農業人口が大幅に減少し、高学歴職（弁護士、医師、エンジニア等）が増加しました。敗戦後、1948年に6,518人いたアリアンサの日系人は21世紀初頭には500人台にまで減少しています。

日系人の高学歴化は、ひいてはブラジル社会、文化への同化を促し、日系人とブラジル人の結婚も増え、4世に至っては62%が非日系人と結婚しています。現在、ブラジル（人口約2億人）における日系人社会は、約190万人といわれています。人口シェア1%に満たない日系人ですが、非常に教育熱心で、最高学府のサンパウロ大学（USP）の学生数の約15%を占めています。永年の忍耐と努力により「ジャポネーズ・エ・ガランチード（信用できる）」と評価されるまでになった日系人は、多文化共生の模範として、各方面で活躍しています。

参考文献：「富山県南米移住史」「ブラジル日本移民百年の軌跡」「共生の大地アリアンサ」 監修：富山県南米協会



“富山移住地発祥の地”
第3アリアンサ入植地移住地点碑
●写真提供: 富山県南米協会

「グローバルライフデザイン」ポータルサイト: **ROOKIES** のご紹介



将来、国際協力の道に進みたいと思っている10代の皆さん！国際協力に関心のある10代に向けたこんなサイトがあるのはご存じですか？

このサイトでは「地球規模で生きる人」「海外を目指す学生たちのリアル」といったコラムを掲載し、将来像やキャリアイメージをより具体的に描いてもらいたい、そして将来の選択肢の幅を大きく広げてもらいたいと願っています。→ <https://partner.jica.go.jp/rookies>

▼なお18歳以上の方、企業・団体の方につきましては、以下のPARTNERのサイトへ

→ <https://partner.jica.go.jp/>

▼また富山県においてはこんな場で情報収集するのもおすすめ！

①協力隊ナビ～JICA海外協力隊経験者と語ろう～：青年海外協力隊富山県OB会主催

→富山県出身の協力隊経験者の体験談が直接聞ける場です。オンラインにて実施中。詳しくは、OB会のFACEBOOKへ (<https://www.facebook.com/jocvtoyama/?fref=ts>)

②JICA国際理解出前講座

→中高生に向けた出前講座では、協力隊経験者による体験談だけでなく、なぜ協力隊を目指したのか、協力隊後のキャリア紹介など、キャリア教育を意識したお話も可能です。



将来JICA海外協力隊への進路を考えている方など、中高生でもお気軽にお問い合わせください！

JICA北陸 富山県デスク (担当：松山優子)

〒930-0856 富山県富山市牛島新町5-5インテックビル4F (公財)とやま国際センター内

Tel・FAX：076-464-6491 / E-mail：jicadpd-desk-toyamaken@jica.go.jp



JICAボランティアからの現地レポート — 番外編 日本にいてもできること —

世界中で活動しているJICA海外協力隊員は、現在、新型コロナウイルスの影響により一時帰国を余儀なくされている状態です。そのような中、海外での活動を活かし、国内で活動している富山の協力隊員を紹介します。

2018年度 2次隊 浅井 康博 (あさい やすひろ) さん (派遣国：コロンビア共和国、職種：料理)

コロンビア共和国では、現地の食材を使用したオリジナルレシピの開発と日本食をイメージしたアイデアレシピの提供という活動を行ってきました。同時に、日本の野菜を栽培して、日本食を試作、試食してもらうことを繰り返しながら日本食のスペイン語レシピを作成していました。また、キッチンカーで貧しい地域や女性刑務所などでも出張料理教室を実施させて頂きました。

一時帰国後、大阪在住の協力隊経験者とJICA関西が共同で進めている『現地めし

(仮)』という隊員から集めた任国の料理レシピ本

へのレシピ提供と試作の協力をさせて頂きました。現地で作成した日本食のスペイン語レシピも140品目を超え、どのようなカタチが良いか模索中です。

このように、レシピを作ったり、干物や茶葉を作ったりと、対象の違いはあっても活動していることは任地にいる時と何ら変わらない気がします。これからも本当に支援を求める国、地域、人と共に学びながら活動していけたらと考えています。



共に生きる TOYAMA

赤沢 省三 さん (ブラジル・サンパウロ州出身)



来日のきっかけ

私の祖父は北海道の出身で、戦前、11歳の時に両親に連れられ、ブラジルに移住したそうです。祖母はブラジル生まれですが、やはり同じく移民の子で故郷は長崎。2人には9人の子がおり、その4番目にあたるのが父でした。三男なので“省三”と名付けられたそうです。私の名前は父の名をもらったものです。

母方の家族も同じく移民で、イタリアからの移民でした。幼少期に住んでいたイタリア系移民の田舎町では、毎週末になるといって達が集まり、みんなでお手製のピザやパスタを食べたことを今でも懐かしく思い出します。

戦前に移住してきた祖父を除き、私達家族は皆ブラジル生まれなので、家族の中で日本語を話す人はいませんでした（父より上の兄弟までは日本語を勉強していたようですが）。けれど、いつか日本という国をこの目で見てみたいという思いが、私の中にずっとありました。19歳の時、単身来日を決意してから、かれこれもう21年目になります。名前だけを見ると全くの日本人。だけど日本語はほとんど分からず、苦労もしました。働きながら必死に独学で勉強しました。

現在のお仕事について教えてください

今は、ポルトガル語の通訳の仕事とあわせて、高岡市内の小・中学校で外国人相談員としても勤務しています。富山県、特に高岡市にはブラジル人児童生徒が多く在籍しており、その子ども達に日本語を教えたり、勉強のサポートをしたりしています。また、4年前からは、週末にボランティアで外国人の子ども達へ学習サポートをする教室も始めました。

外国人の子ども達への支援について教えてください

外国人の子ども達に関する学校での課題は、勉強や言葉の問題だけではありません。私が一番心配なことは、彼らが学校で友達を作れないことです。学校に友達がいないことは、子ども達にとってすごくつらいことです。

例えば、活発な子でサッカーが上手な子なんかは、割とすぐに溶け込んでいきます。言葉が通じない分、喧嘩もありますけどね。保護者は心配しますが、子ども同士は案外ケロっとしていることが多いです。

心配なのは、引っ込み思案な子ども達です。まったく知らない言葉の中で、表情もどんどん暗くなっていきます。本来楽しいはずの学校の時間が、ぼっかりと穴があいた空白の時間になってしまいます。

大切なことは、一度彼らに合わせてあげることです。授業のやり方ひとつとっても今までとは全く違いますし、子ども達の受けるカルチャーショックは大人が考えるよりはるかに大きいです。

また、今ではほとんどの保護者が子ども達に進学してほしいと思っています。昔のように中学を卒業したら働きに出る時代は終わりましたからね。ですので、学校の勉強をサポートしてあげることが今後ますます重要な課題です。

ボランティアの活動について詳しく教えてください

もう今年で4年目になります。始めようと思ったきっかけは、通訳の仕事が忙しくなって、以前のように学校へ行く頻度が減ったことからです。もっと子ども達のために何かしたいと思い、ボランティアで教室を始めることを決意しました。土曜日、子ども達と一緒にいると、「ああ、やっと今週も1週間終わるなあ」とほっとする気持ちになります。子どもは地域の宝です。私にとって、子ども達と一緒に過ごす時間はかけがえのない大切な時間です。

誰かと心を通じあったり、触れ合ったりすることはとても大切です、素敵なことです。私にとってのそれが“教育”の中の触れ合いでした。

富山の好きなおとろ

日本にきてもう20年以上が経ちますが、富山が一番長いですね。なんとなく、幼少期を過ごした田舎町を思い出すからかもしれません。富山は自然が豊かですし、街も綺麗で買い物にも困りません。都会へもすぐ行けて本当に住みやすいところです。私にはすごくよく合ったんだと思います。妻と出会ったのも、ここ富山県です。私にとっては富山がもう生活の場所になっていますね。

最後に、外国人が活躍できる富山県になるためには何が必要だと思いますか？

まず、日本人でも外国人でも一番大切なことは、生活の保障です。それは、つまりはプライベートの時間の充実でもあります。やはり今、外国人には派遣労働者や日雇い労働者が多く、生活の保障がされていません。

さらに、今はコロナの影響もあって、解雇された人も多くいます。もちろんそれは外国人に限らず、今は色々な人が苦しんでいますね。残業も多く、労働環境も決して良いとは言えないところもある、プライベートの時間も十分に確保できません。でも、せっかく富山に来たのに、解雇されて、また仕事を変えて、引越をして…ということだと、地域で活躍するのは二の次三の次になってしまいます。日本人も外国人も心配なく暮らしていけるような日が来ることを願っています。



1歳の誕生日パーティーにて。中央…赤沢さんとお母さん。
左奥から2番目の男性がお父さん。

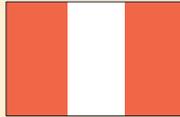
Papa a la Huancaína (パパ・ア・ラ・ワンカイーナ)

茹でたジャガイモに、チーズを使った“ワンカイーナソース”をかけた料理で、日本人にも食べやすいペルーの庶民料理です。Papa(パパ)はじゃがいも、Huancaína(ワンカイーナ)はペルー中部、アンデスの都市Huancayo(ワンカヨ)を指していて、『ワンカヨ地方のじゃがいも料理』という意味です。通常、ソースには、ペルーでは有名な黄色の唐辛子(アヒ・アマリージョ)を使うのですが、今回は日本でも気軽に手に入るオレンジ色のパプリカを代わりにして作ってみました！



～作り方～

1. ジャがいもは茹でて、皮をむく。トッピング用に卵も茹でておく。
2. パプリカ、たまねぎ、にんにくをそれぞれみじん切りにする。
3. フライパンに油(分量外)を少し入れ、2を焼き色がつくまで炒める。
4. 十分に炒めたら材料Aと一緒に、なめらかになるまでミキサーにかける。(クリーミーなソースにするため、硬ければ牛乳を、水っぽければクラッカーを追加して好みの硬さに調整してください)
5. お皿にレタスを敷き、好みの大きさに切ったジャガイモを盛り付け、上からソースをかけて、ゆで卵やオリーブ(あれば)をトッピングすれば出来上がり。 **Buen provecho!!!** (めしあがれ)



～材料(4人分)～

- じゃがいも …… 中4個
- 卵(トッピング用) …… 2個
- レタス …… 2枚

【ワンカイーナソース】

- パプリカ(オレンジ色) …… 1個
- たまねぎ …… 中1/2個
- にんにく …… 1片

- チーズ(切れてるチーズなど) …… 約150g
- 牛乳 …… 300cc
- A プレーンクラッカー …… 小分け3パック(約20g×3)
- サラダ油 …… 大さじ2
- 塩 …… 小さじ1/2

～アレンジ～

じゃがいもをゆで卵やマカロニ、パスタなどに変えてこのワンカイーナソースをかけてもおいしいですよ。是非試してみてください！

TICからのお知らせ

これからの行事予定

外国語の絵本よみきかせ親子の会

- 10/10(土) 英語
- 11/14(土) ロシア語
- 12/12(土) 英語
- 時間：10:00～11:00
- 場所：環日本海交流会館

災害時外国人支援ボランティア研修 (やさしい日本語研修)

- 日時：10/10(土) 14:00～15:30
- 場所：とやま国際センター 研修室

(多言語翻訳研修)

- 日時：10/31(土) 14:00～15:30
- 場所：インテックビル(タワー111) 4階
スカイギャラリー

ナマステインディア

- 10/12・26(月) 家庭でしか食べられないインド料理
- 11/ 9・16(月) インド人の憧れの職業
- 12/14・21(月) インドの教祖たち
- 時間：18:30～20:00
- 場所：とやま国際センター ラウンジ

国際交流ひろば

- 10/17(土) 第2回『アメリカ料理』
- 11/28(土) 第3回『インド料理』
- 12/13(日) 第4回『ベトナム料理』
- 時間：10:00～13:00
- 場所：富山県民共生センター「サンフォルテ」

国際交流人材バンク通訳者セミナー

- 日時：10/24(土) 13:00～15:00
- 講師：ブラッドリー 純子氏
(EJ Expert 代表、会議通訳者)
- 場所：オンライン (Zoom) にて開催

外国人のための防災講習会

- 日時：11/1(日) 14:00～15:30
- 講師：認定NPO法人レスキューストックヤード
代表理事 栗田 暢之氏
- 場所：富山国際会議場 2F多目的会議室

災害時外国人支援研修(自治体職員向け)

- 日時：11/6(金) 13:30～17:00
- 講師：楊梓氏(人と防災未来センター 主任研究員)
高畠 智美氏(トヤマ・ヤポニカ 講師)
- 場所：インテックビル(タワー111) 4階
スカイギャラリー

第2回日本語支援ボランティアスキルアップ研修会

- 日時：11/14(土) 13:00～15:00
- 講師：神吉 宇一氏(武蔵野大学准教授)
- 場所：オンライン (Zoom) にて開催

とやま国際塾(高校生対象)

- 日時：11/15(日) 9:30～16:00
- 講師：松山 優子氏(JICA富山県デスク)
CHIKO氏(富山県在住ミュージシャン)
- 場所：インテックビル(タワー111) 4階
スカイギャラリー